

現在の仕事とか転勤とか

第7期 OB 上田 修平

「上田君，突然じゃけど東京異動」。11月中旬予期せぬタイミングで辞令を頂き，地元山口県からまた東京に帰ってきました。宇部興産㈱に入社して2年半，山口県のセメント工場で製造原価を算出してきましたが，東京での新しい部署でも，建設資材の製造から販売までの損益管理をすることになり，経理屋さんを続けています。学生時代を知っている皆さんには，「あの上田が経理かよ」と思われる人が大多数であろうと思いますが，仕事は着実にこなせております。

優秀な小野ゼミの方が，なかなか体験できないであろう工場現場での仕事を体験できたので，工場にいた時の仕事内容を少し書かせていただきます。私の工場時代の業務は，簡単に言うと，工場の製造原価の予算を算出し，実績との差異分析を行い，差異理由を経営層に伝え，次なる一手を打つ手助けをしておりました。言うのは簡単ですが，会計の教科書を勉強するだけでは，分からない事だらけでした。例えば，



山口県宇部市在住時代の著者（左端）

セメントを製造するには、多量のエネルギーが必要なのですが（弊社の CO₂ 排出量は日本 TOP10）、その多くは石炭を使用しています（セメント製造コストの約 4 割）。石炭といっても種類が沢山あり、各石炭が持っている発熱量、硫黄量、塩素量、硬さなどが全てマッチしていないと使用できません。ただ安い石炭を使えば良いわけではないので、なぜ、その石炭を使用したかなどを事細かに現場に聞き取りに行かなければなりません。質問をし、回答をもらう際、経理にとって、ロジックが全てです。先輩・上司に差異理由を伝えると必ず「なぜ・どうして」という質問が飛んできて、詰め将棋で負けが決まっているのに更に詰められ半泣きになる事もしばしばありました。一方、現場の方とは、人間関係の構築が大事です。ただでさえ生意気な自分が、上司にされるような質問をされると、よく現場からしばきあげられました（笑）。なんだかんだそのような環境に 2 年もいると慣れてくるもので、異動前は両方の間に入ってやりくり出来るようになりました。その過程で現場の方と消防大会に出たり、飲みに行ったり、業務以外のところでいろんな方と濃い時間を過ごす事の重要さも改めて肌で感じました。

まあ、相変わらず文章としては、下手でよくわからないと思いますが、言いたいことは相変わらず上田修平は変わってないので、飲み遊びに行きましょう。



現役第 11 期インゼミ代表から三田論指導の謝意を表され、照れる著者



小野ゼミ忘年会@つるのやに飛び入り参加して、スピーチする著者